

## 南国生活技術研究所代表 黒笹慈幾（66歳）



2012年3月東京・国立市から高知市へ移住

## 移住時の黒ちゃんの家族



## 移住5年後、現在の黒ちゃんの家族



# 編集者時代に私が関わってきた雑誌と記事

情報誌 ビーパル／ラピタ／ビーパルプリマクラッセ／edu

※ビーパル、ラピタ、プリマクラッセ、eduは創刊誌



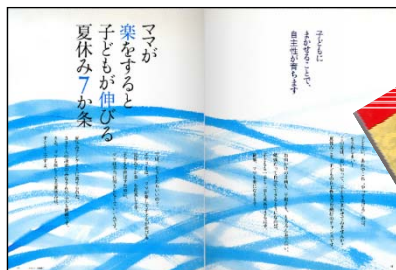
edu 2008年8月号



ウェブ edu



BE-PAL 創刊号



ビーパルプリマクラッセ 創刊号

# 編集者時代に私が関わったコミック作品

## コミック誌

ビッグコミックオリジナル／少年サンデー

担当作品は「三丁目の夕日」「釣りバカ日誌」

「浮浪雲」「人間交差点」など





## 黒ちゃんはハマちゃん？



コミック編集部時代に「釣りバカ日誌」の立ち上げを担当以来、主人公浜崎伝助のモデルということになっている。つまり黒ちゃんは高知ではハマちゃんとも呼ばれている。

**いつのまにか「シニア移住」のモデルに抜擢**



# 高知県移住HP



高知家で暮らす。黒笹さんインタビュー  
 ノートブック: genchan9633 のノートブック  
 作成日: 2015/01/08 17:14  
 URL: http://www.prof.kochi.lg.jp/~chiiki/iju/hajimeni/kurokasa.shtml  
 更新日: 2015/01/08 17:58

「釣りバカ」が選んだ、最高の「終の棲み家」。

## 黒笹慈幾さん(63)

2012年に移住。東京都出身。「南国生活技術研究所」代表。食、教育、観光、マンガ分野のほか、新お洒落スタイルの提案などを通じ高知県の復興に貢献されている。いまや高知県のシルバー移住の代表選手となっているのが、今回動画の冒頭に登場する黒笹さんだ。もはや国民的なコミック作品となった『釣りバカ日誌』(やまさき十三・作、北見けんいち・画)の主人公「ハマちゃん」のモデルとなった方で、つまり日本を代表する本場の「釣りバカ」。そんな黒笹さんが、定年退職後の人生を謳歌するために選んだ移住先が高知県。

「釣り好き」でどこかに移住をと考えている方々にはグイッと高知への移住に心を揺れ動かされるに違いない。仕事もそっこのけ(！?)で「釣り」のことで頭がいっぱいだったハマちゃん、もとい黒笹さんが、定年退職を機に、新たな人生のステージをどのように考え、高知へ移住することに至ったのかを探った。

**高知は「日本語の通じる外国」だ**

小学生の頃から夏休みになるとひとりでブルートレインに乗って、お母さんの生家があった広島県の山奥で川釣りを楽しんでいたという黒笹さん。大人になっても釣り好きの虫は収まらず、就職先である小学館でもその釣りバカぶりは有名だったという。そんな黒笹さんを見ていた当時の上司が、釣り好きのダメザラリーマンを主人公にしたコミック作品が作れるのではないかと思いつき、初代担当者として黒笹さんを指名し、生まれたのが『釣りバカ日誌』だった。原作のやまさき十三さんとは取材を口実によく釣りに行ったというから何とやらやましい！さらにその後、創刊に関わったアウトドア雑誌B E - P A ! 員として、日本各地の山や川、海を取材しながら、ポスト会社人生を過ごすのに忙しい。最後に福岡と高知が候補地に残り、知り合いの多かつた...

高知で暮らす。 高知で暮らし隊 会員大募集 移住・交流 コミュニティ 088-823-9336

- はじめに
- 移住までの流れ
- 移住者インタビュー
- 移住・交流 コミュニティ
- Q & A
- 高知について

「高知家で暮らす。」ムービーができました。

**高知家で暮らすとは?**

「高知家で暮らす。」は、高知県へのUターン、Iターン(移住)を検討する方向けのポータルサイトです。移住までの具体的な流れを知りたい、高知の情報や具体的な体験エピソードについて知りたい、など高知県への移住にまつわるさまざまな情報を発信しています。

- 高知家で暮らす。更新情報**
- 2014.04.11 [5/10(土)大阪,11(日)東京]『あったか高知で暮らす。移住英会話』を開催します。
  - 2014.04.04 東京に高知県移住相談窓口を開設しました!
  - 2014.04.02 いの町で「集落支援員」、室戸市・土佐清水市で「地域おこし協力隊」を募集中です!
  - 2014.04.04 養殖業に興味のある方必見!『平成26年度第1回商業試験セミナー』参加者募集のお知らせ
  - 2014.04.04 【求人情報】平成26年度高知県職員(補欠)の募集のお知らせ
  - 2014.03.27 林業への就業を希望される方必見!『林業就業支援講座』開催のお知らせ
  - 2014.03.24 【市町村トピックス更新】美しい棚田の残る土佐市のシェアオフィスで働いてみませんか

# 高知市広報誌「こうちらいふ」

／高知市への移住者インタビュー／



都会から定年後高知へ  
セカンドライフ  
黒世 慈幾さん

釣りをしたいけど、面白いことが  
いっぱいあってなかなか行けない。  
それだけすごい資源が  
高知にはあると思います。

最低限の都市機能と  
すぐそばの良好な自然。

東京の大手出版社で働いて  
いた黒世慈幾さんは、アウトドア  
雑誌「BEIPAL」の編集長を  
はじめ、現役時代は仕事で日本  
中を回り、趣味の釣りも楽しん  
でいた。そして定年退職後に訪れ  
る、仕事も遊びも存分に楽しめ  
るプレミアムな時間を、自分の納  
得のいく場所と方法で使いた  
い。高知市へ移住を考えていた。

でも、その夢に家族を巻き込んで  
いいの？と逡巡している時に、  
東日本大震災が起こり、自分と  
家族の背中を押したという。  
黒世さんは「東京や大阪で暮  
らす、都会にどっぷり浸った生  
活者が移住となっても、都会生  
活者が移住とはなかなか棄て  
活の快適な部分はなかなか棄て  
られない。例えば公共の場所に  
洋式トイレ、ウォシュレットがあ  
る。奥さんにはデパートがある  
か。身の回りのインフラは重要  
で、僕はまず大都市からスモ  
ルシティへという移住の第一ス

テップがあってもいいんじゃない  
かと思えます。高知市は、最低  
限の都市機能を備えながら、良  
好な自然がすぐそばにあります  
よね。これは非常に評価できま  
す」と高知市を見ている。

## 女性のチカラを 活かす世界の先進国。

取材をしている最中に、移住へ  
の思いや移住者呼び込みため  
のアイデアが次々と出てくる。そ  
の中でも印象に残ったこと  
が高知の「居心地の良さ」と女  
性のチカラ。

「昔の時代の中心地(京・江戸)か  
らすると高知は過隔地なので、  
商人などは新しい情報を必ず  
持つてきたと思います。お遍路  
さんの文化も、まさにそう。その  
ため外から来た人たちを大切に  
するという遺伝子が、高知の人

たちの体の中にある。だから私  
たち移住者は本能的に居心地  
が良い。この感覚を伝えること  
は、非常に重要だと思います。

また、女性力。断トツに強い  
ですよね。高知県は女性が職場に  
入っている率が非常に高く、  
担っている仕事の量と貢献度は  
大きい。フランスと同じように、  
女性がすでに社会進出してちや

んと生計を支えている。これ、高  
知は世界の先進国ですよ(笑)。  
釣りとセカンドライフのプ  
レミアムな時間を過ごすために  
来た黒世さんだが、高知に来て  
も引く張りだ。忙しい日々、  
「毎日釣りに行くよりは、面白い  
ことがいっぱいある。なかなか釣  
りに行けないほうが健全な状態  
だと思います」とさわやかな笑顔で  
答えてくれた。

## 移住後に気づいたQ&A

Q 定年後すぐに移住した理由は。

A 会社を卒業したら移住しようずっと考えていま  
した。その中で高知は最初から気になっていた場所  
です。ただ僕自身は本気でしたが、家族を巻き込めるの  
かは半々だろう。見果てぬ夢かなと会社勤めの頃は  
思っていました。

Q 家族の理解をどう得ましたか。

A ウチの奥さんにとっても、放射能不安でスーパーで野  
菜や肉、魚などの買い物が出来なくなるなど、東日本大  
震災の影響は大きかった。それで「ママは/い/について  
いく」となり、単身赴任の選択がなくなった(笑)。

Q 家族の高知での暮らしは。

A 子どもは学校にすぐ馴染みました。奥さんは一生懸  
命仲間づくりをしていますね。

黒世慈幾さんプロフィール  
1950年、東京都生まれ。小学館入社。『釣りバカ日誌』の主人  
公・浜ちゃんのモデルになる釣り好き人間。2012年に高知  
市へ移住。「南国生活技術研究所」代表。

# 高知新聞2015年1月1日紙面

7年) 1月1日(木曜日)

高知新聞

(第3種郵便物認可)

## 「幸せすぎて困る」

元雑誌編集者 黒笹 慈幾さん



高知市の筆山から皿ヶ峰に登った。浦戸湾を見下ろしながら黒笹慈幾さんは「素晴らしい景色だねえ。僕の釣り場も見えるよ」(同市幸路)

### 東京で刺し身食べられない

食べること

イケダさんのブログ「まだ東京で消費しているの」には、本県の食材の量が、飲食店のフオロイヤーの高さがしばしば紹介され、

「東京で刺し身食べられない」  
ら贅沢ですね。シカ肉の血を使ったソーセージをつまむ。こんなのなかなか東京で食べられないですよ。なんか悪いですね(笑)」

シカ肉のたたき、リエット、ポトフ、イノシシ、ステーキ、カルボナーラ、  
イケダさん、  
うのもあるて



「いなか暮らしの本」にも2度登場

## 高知移住後に加わった肩書き

高知大学地域協働学部、地域連携センター特任教授  
仁淀ブルー通信編集長

**「そだ地方で暮らそう！」国民会議委員**

高知版CCRC取りまとめ委員会委員

高知県まんが王国土佐推進協議会アドバイザー

志国高知幕末維新博覧会運営委員会委員

高知県高幡地域観光アドバイザー

高知県越知町企画課アドバイザー

高知市総合計画審議会委員

高知広域連携中枢都市圏ビジョン策定懇談会委員

四国遍路世界遺産登録普及啓発部会委員

NHK四国地方放送番組審議会委員

## **2016年の講演依頼35本**

## 浜ちゃんの講演会の主なテーマ

釣りバカ浜ちゃんの高知移住7つの理由  
釣りバカ浜ちゃんの優雅な高知暮らし  
釣りバカ浜ちゃんのハッピーリタイアメント講座  
日本語の通じる外国・高知に暮らす  
ゆっくり、先を急がない。シャクトリムシ遍路の愉しみ



最近の演目では  
「人生二毛作のすすめ」  
が大ヒット中





# 釣りバカ浜ちゃんの 人生二毛作のすすめ



高知大学地域連携推進センター特任教授 黒笹慈幾

## 二毛作とは？

一年間に米と麦，あるいは米と大豆というように  
二種類の異なった作物を同一の耕地に栽培し収穫すること。  
日本では鎌倉時代以後普及したが  
戦後の高度成長の過程で激減した。

『三省堂 大辞林』より

**60歳までの一毛作めの人生は東京で編集者**



**60歳を越えてからの二毛作めは高知で違う人生を**



なぜならば  
高知は釣り師の天国だから



高知における黒ちゃんのミッション・ステートメント

**東京にいたら絶対にできないことを  
二毛作めの高知でやる！**

# 話をしてもいいですか vol.74

久保登栄=取材  
河上展徳=写真

## 高知を、ハッピィ！ リタイアの聖地に。

出版メディアの老舗で編集者として名を馳す。これからは、人と自然の老舗・高知で夢に挑む。

黒笹 慈幾

Yasuhi Kurosasa

小学館を定年退職後、高知へ移住。編集者として『釣りバカ日誌』後のヒット作を育て、雑誌『ピーパー』編集長などを歴任。高知生活技術研究所を設立。



黒笹さんが行きつけの釣り場である鏡川河畔へ歩き始めると、少し離れたマシヨンのてっぺんから羽の青サギが、ゆらりと飛び立った。やがて河川敷へは同時に到着するや、青サギは折からの川風に身を浮かせながら、じっと、こちらを見ている。どうやら最近この人からハッピィをもらっている「青ちゃん」らしい。

「大都市の真ん中にきれいな川が流れている。そして豊かな浦戸湾」。小学館の名物編集者として定年まで勤めた黒笹さんには、「釣りバカ日誌」など、誰もが知っているヒット作や看板雑誌を世に出してきた実績と、網の目のような人脈がある。自身がこよなく愛する釣りや川を体現したアウトドア雑誌『ピーパー』は、たびたび高知や仁淀川が登場していた。「仁淀川漁師秘伝 赤太さん自慢ばなし」は、担当者として関わった書籍の中でも思い出深い一冊だという。「息子さんが本を通じて父親の人生を理解し、喜んでくれ

た。編集者冥利です。高知ではそういうことがけつこうあった」。定年を機に、東京からすっぱりと、妻子ともども高知へ移住した黒笹さん。地元の人々が空気のよいに当たり前と思っている、かけがえない自然環境や食文化が、高知にはある。定年という節目の直前に起きた東日本大震災が、夢を本気に変えた。「61歳から65歳はプレミアムな時間。主体的にこれからの人生の判断をしようと思った。見果てぬ夢のままだま終わらしても」。

5年ほど前、高知へ行きたいと心の中で決めた時から、あたたかめていた仕事があった。それが、現在立ち上げている南国生活技術研究所となる。テーマは、誇りを持って高知に暮らす人を応援すること。4つの柱からなり、「高知の豊かな食文化の広

報宣伝活動」というのは身近で興味深い。「高知は競争力のある二次産業で生きていく覚悟を」と黒笹さんはいう。野菜を軸に、北海道の十勝と高知の若手農家をつなぐプロジェクトが、始まった。日本の北と南では収穫時期が逆になる野菜も多く、消費者も生産者も、交流・連携することで生きる道が見えてくるはず。

INFO 黒笹さん「釣りバカ日誌」の黒ちゃん、高知滞在7〜9月号(2012年1月20日)1200〜1500 0502-1117 久保登栄 問い合わせ:GAINFORMATIONウェブページ 黒笹さん 高知市 高知市生活技術研究所 TEL:0985-6636

高知新聞ケイプラス記事

# 人生二毛作のための準備

さまざまな点検・整理・整備が要る



たとえば…

1. 一毛作めの「人脈（友人）」の点検と整理
2. 二毛作をするための「カラダ」の点検・修理
3. 二毛作をするための「脳」の点検と整備

**人生二毛作は  
今までの人間関係をすっぱりと  
断ち切る快感がある**

**人生二毛作は  
新しい人たちと新しい人間関係を  
ゼロから作り直す楽しみがある**

**人生後半戦を戦う脳は  
「肯定脳」と「楽観脳」の組み合わせ  
がベスト**

## 黒ちゃんの主張

人生二毛作時代を反映した  
内閣官房「まち・ひと・しごと創生本部」の  
創生総合戦略に  
高知県は積極的に乗っていくべきである。

そんな大風呂敷を広げているうちに...

**高知版CCRCの取りまとめ委員を拝命**



内 容：楡周平氏(小説家)による基調講演と有識者によるパネルディスカッション  
 参加者：約120名

●高知版CCRC構想とりまとめ委員会

高知版CCRC構想策定に向け、高知版CCRC研究会で出されたアイデアのとりまとめ、基本コンセプトや事業モデル等に関する意見交換等を行った。

- 第1回：平成27年11月16日(月)
- 第2回：平成28年 1月25日(月)
- 第3回：◇ 2月22日(月)
- 第4回：◇ 7月28日(木) ※最終とりまとめ

<委員名簿>

	企業・団体名	役職	氏名
1	高知大学	副学長	受田 浩之
2	土佐経済同友会	特別幹事	中澤 陽一
3	高知県中小企業家同友会	副代表理事・政策企画委員長	大石 真司
4	南国生活技術研究所	代表	黒笹 慈幾
5	高知市 移住・定住促進課	課長	山岡 奈穂子
6	土佐町 総務企画課	課長	澤田 智則
7	高知県産学官民連携センター	センター長	杉本 明

●高知版CCRC構想概要説明会

高知版CCRC構想(「高知家生涯活躍のまち」を実現するために～高知版CCRCのすがた～)の概要について説明を行った。

平成28年8月3日(水)

Continuing Care Retirement Community

**生涯活躍のまち**

**愛称：プラチナコミュニティ**



**高知版CCRC**

アクティブシニア・コミュニティ

いごっそはちきんタウン

釣りバカヴィレッジ

さらに...

**「釣りパラダイス高知」の広報担当も**



## 二毛作めの釣り人生を送る適地は高知



# 作家・夢枕獏さんも高知移住の応援団に参加



夢枕獏さんいわく「高知県は、海よし、川よし、ほどよき文明もあって、人生の後半戦を生きるには実によい所である。」忘竿堂日記より

# 昨年、漫画「釣りバカ日誌」の高知誘致に成功



原作者のやまさき十三さん

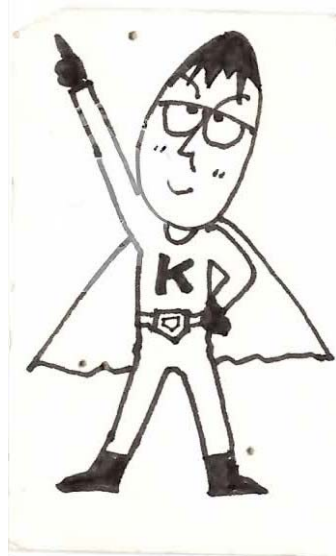


## 尾崎正直・高知県知事を釣りに誘い出すことに成功



その狙いは...

**高知県庁観光振興部内に「釣り場課」の創設**



ご清聴ありがとうございました。